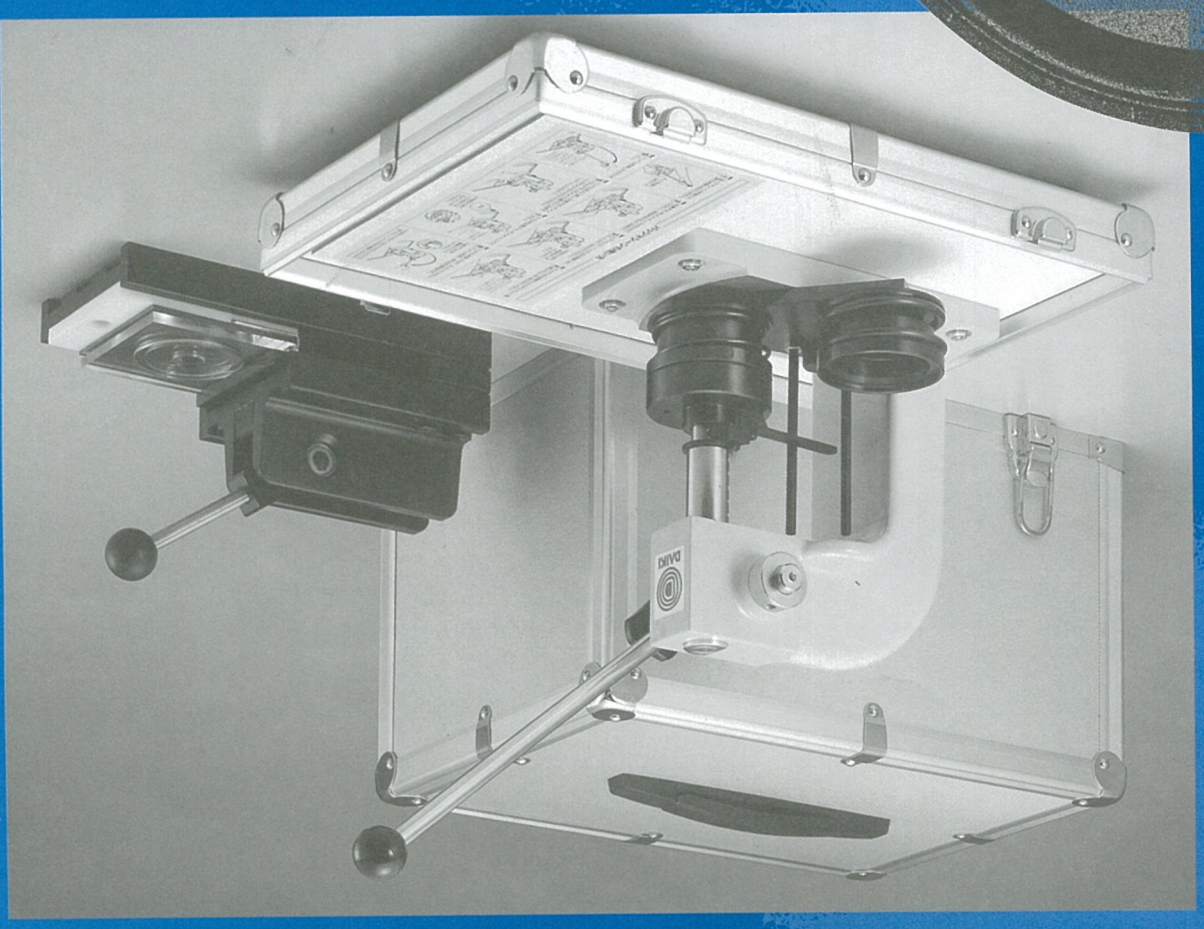
DAIKI

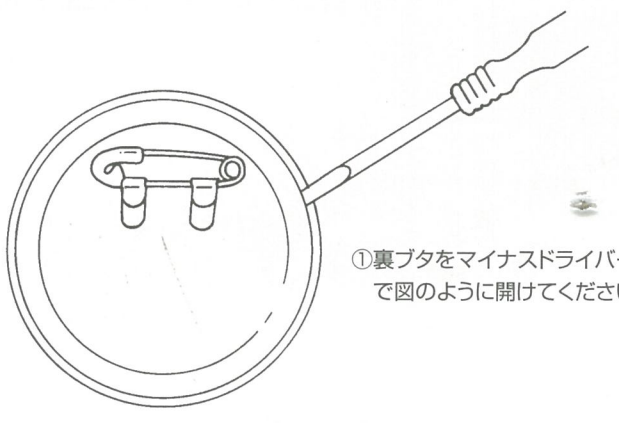
A BADGE MACHINE

バッジマシーンの操作方法



HOW TO USE

バッジ製作に失敗した時は



①裏ブタをマイナスドライバーで図のように開けてください。

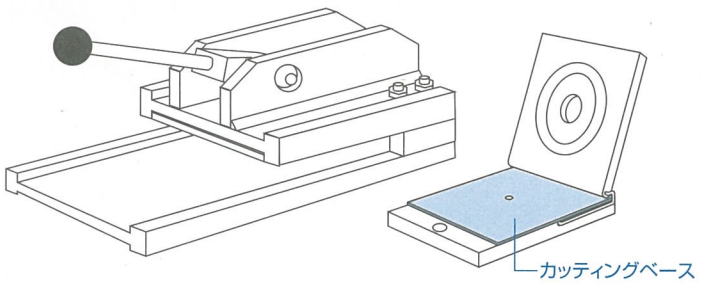
②次に失敗した紙、写真などのシワをよく伸ばしてください。
そして最初からバッジ作りにかかってください。
この時の作業工程はゆっくりと行ってください。

※失敗したパーツは使用しないでください。

このシワをよく伸ばしてください。

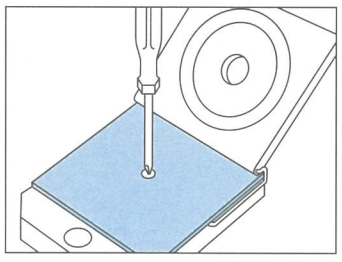
交換品（消耗品）について

ライトカッターの場合



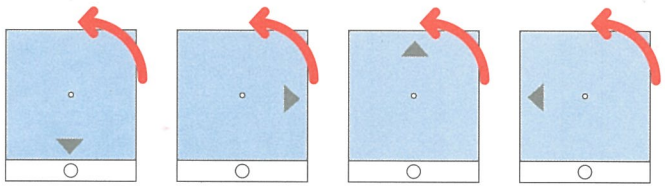
写真などのキレが悪くなった場合は、
ブレードのカッティングベースを付け替えてください。

●カッティングベースは裏表使用できます。



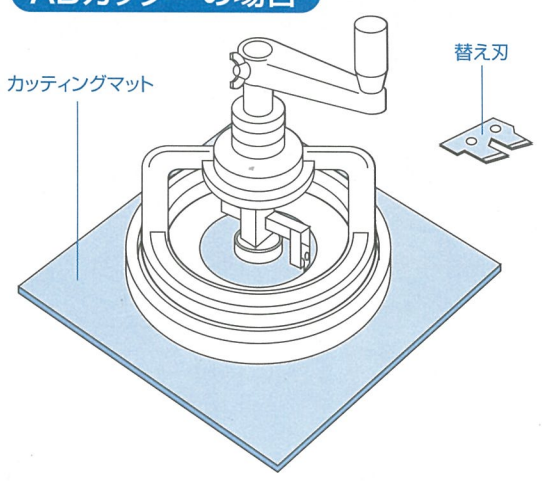
中心のネジを十字ドライバーで外し、カッティングベースを付け替えてください。

●カッティングベースの向きを変えるだけでも、キレが良くなる場合があります。



※カッティングベースはオプションとして販売しております。

ADカッターの場合



カッティングマット
材質：ネオプレンゴム
販売しているところ：ホームセンター等のD.I.Y.ショップ

替え刃
オルファ（岡田工業）のコンパスカッターSの刃を使用。
販売しているところ：ホームセンター等のD.I.Y.ショップ

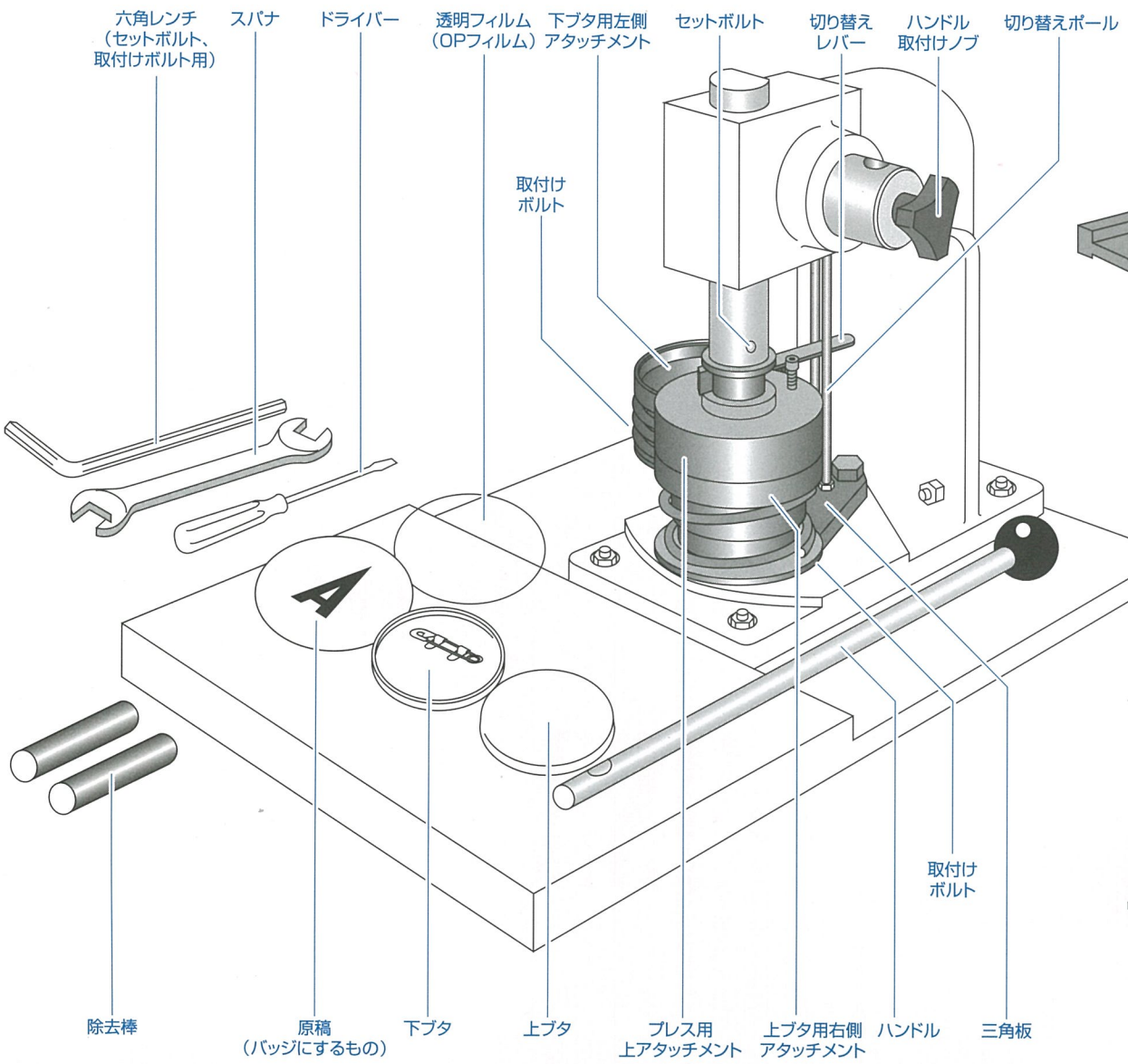
DAIKI
株式会社 ダイキ

●お問い合わせ、ご用命は

総合レンタルショップ
なんでもある！ ある！
R&Rレンタル
尾道サテライトショップ
TEL.0848-20-3270

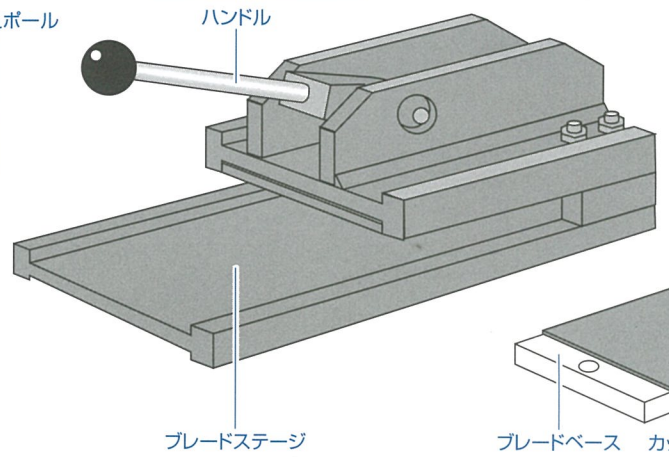
各部の名称

バッジマシーン

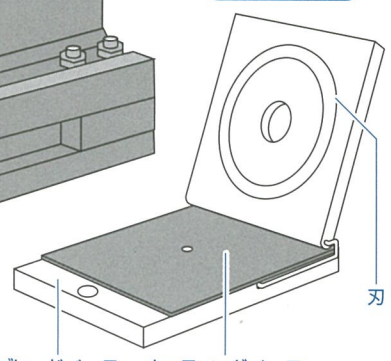


予告なく仕様を変更する場合がありますが、ご了承ください。

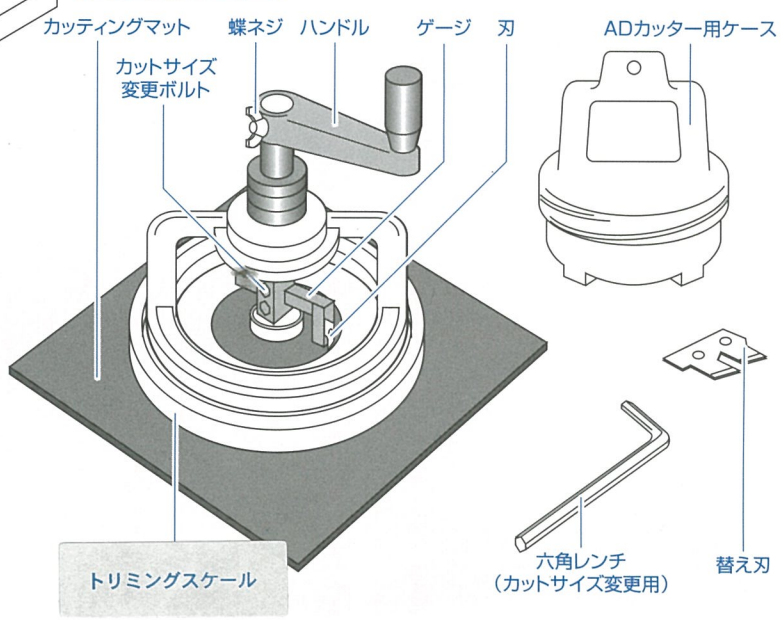
ライトカッター



ブレード



ADカッター

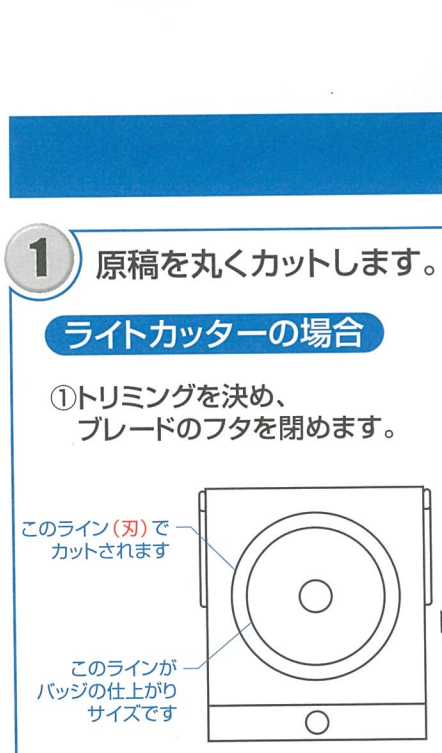


操作手順

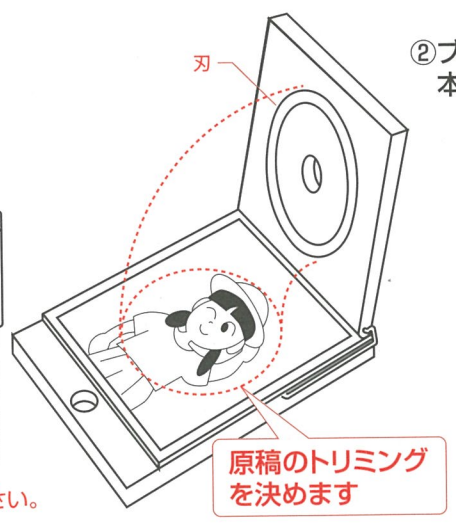
1 原稿を丸くカットします。

ライトカッターの場合

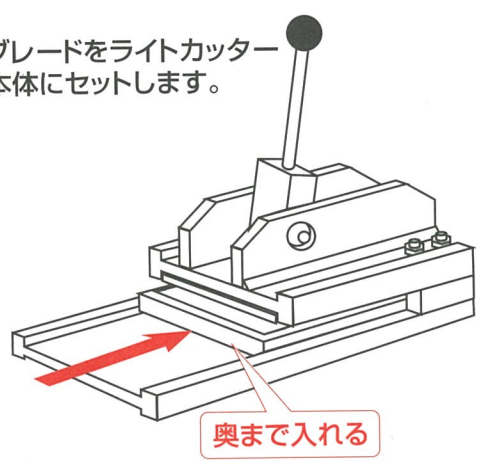
①トリミングを決め、ブレードのフタを閉めます。



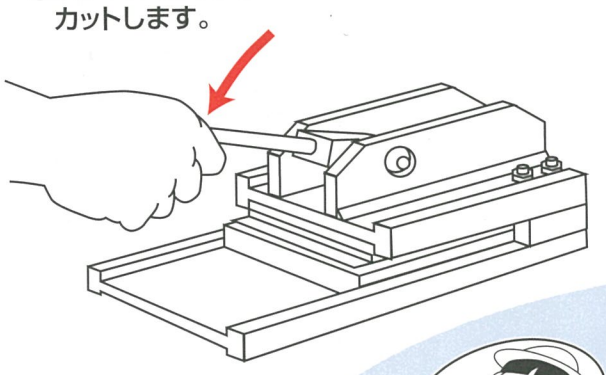
※刃物ですので、取扱には注意してください。

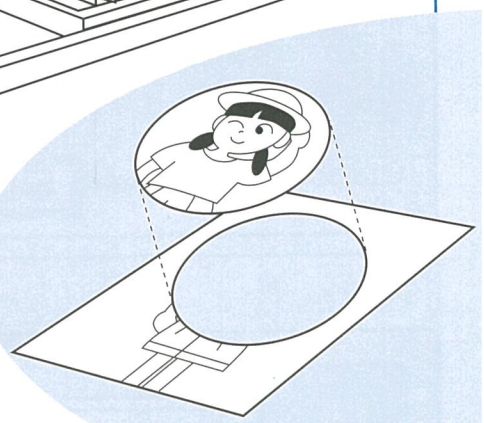


②ブレードをライトカッター本体にセットします。



③ハンドルを降ろしカットします。



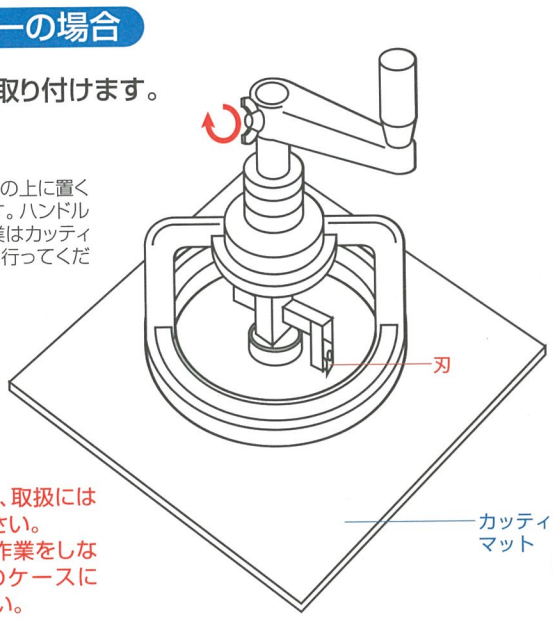


ADカッターの場合

①ハンドルを取り付けます。

※蝶ネジを強く締めてください。

※カッターを直接机の上に置くと刃先が傷みます。ハンドルを取り付ける作業はカッティングマットの上で行ってください。



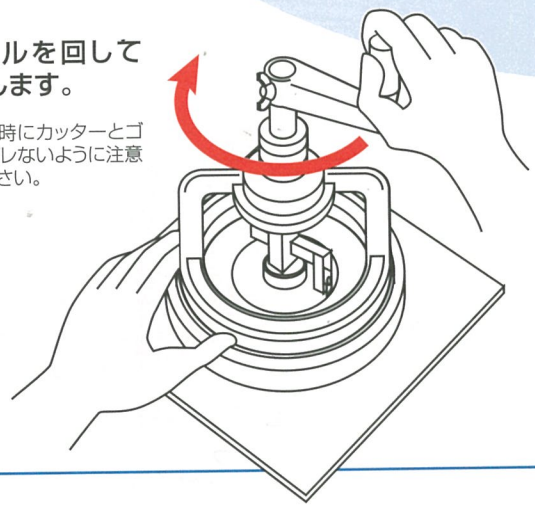
※刃物ですので、取扱には注意してください。
※安全のため、作業をしない時は付属のケースに入れてください。

②原稿の上にアルミ円板を乗せ、トリミングを決め、ADカッター本体をセットします。

※65mmφ、75mmφのバッジの場合、トリミングスケールは使用しません。

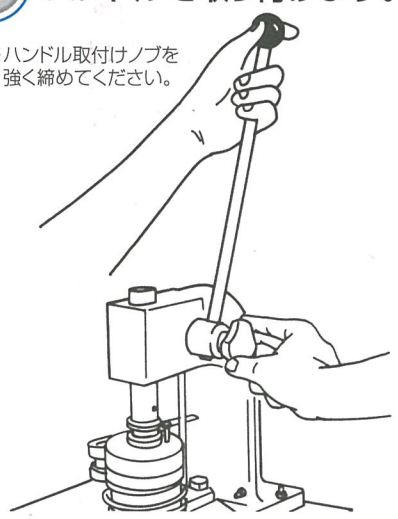
③ハンドルを回してカットします。

※切り抜く時にカッターとゴム板がズレないように注意してください。

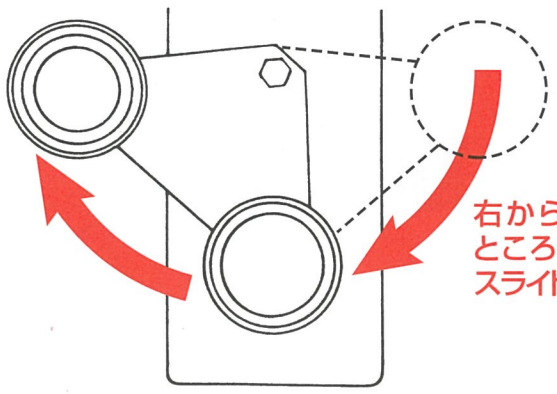


2 ハンドルを取り付けます。

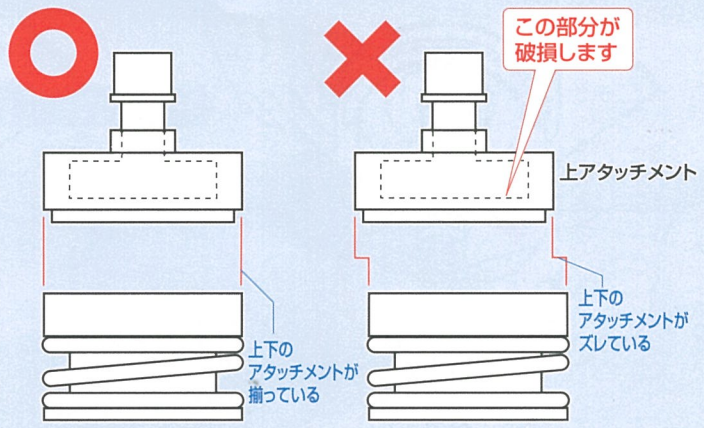
※ハンドル取付けノブを
強く締めてください。



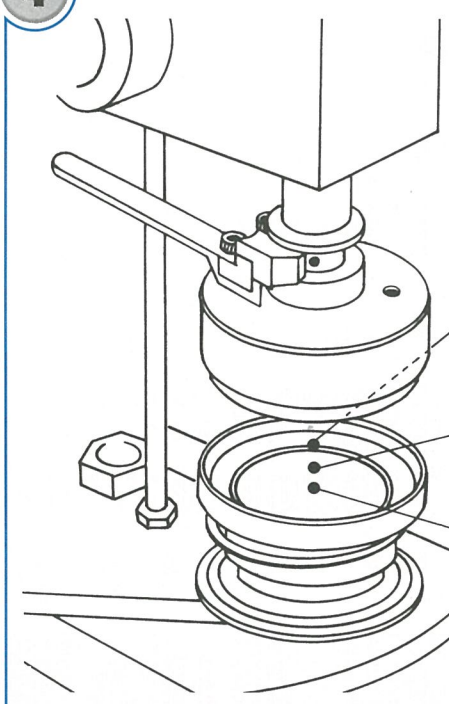
3 右側のアタッチメント（上ブタ用）がプレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。



しっかりスライドさせないと、故障の原因となります。



4



アタッチメントに、上ブタ、原稿、透明フィルムの順に乗せます。

※この時、アタッチメントの枠からずれないようにセットしてください。

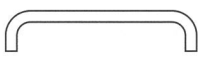
基本セッティング例

③透明フィルム（OPフィルム）
※一枚だけセットします。

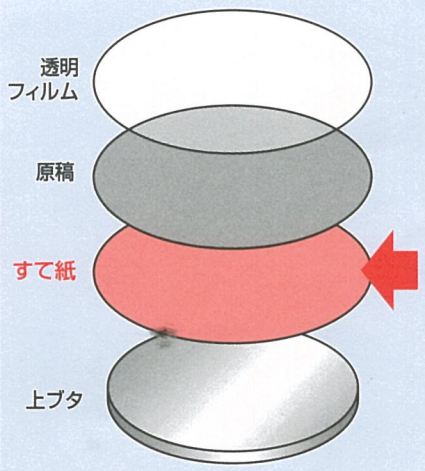
②原稿
※写真は表面を上にしてセット。
※Aの方向から見て（機械を正面から見て）、まっすぐになるようにセット。

A

①上ブタ
※お皿を伏せるような形でセット。



原稿が薄すぎる場合



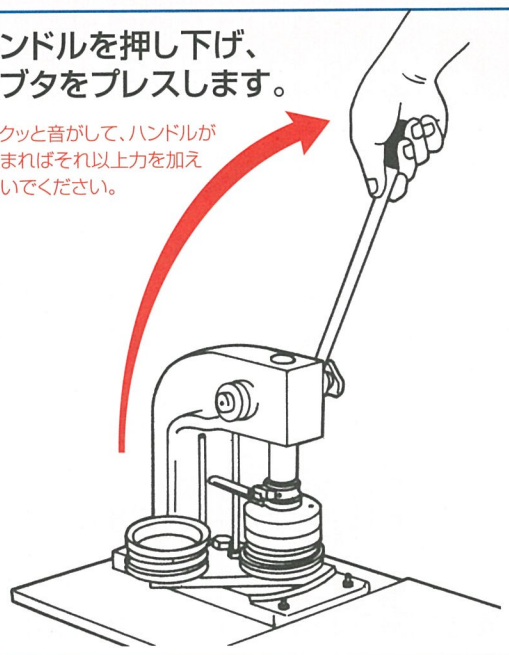
原稿が薄すぎると、簡単に上ブタと下ブタが**抜けてしまう時**があります。
この場合は**すて紙を1枚**、原稿と上ブタの間にはさんでプレスしてください。

※逆に原稿が厚すぎる場合にはバッジが製作できない時や故障の原因になる時があります

透明フィルム（OPフィルム）に関して6ページをご覧ください。

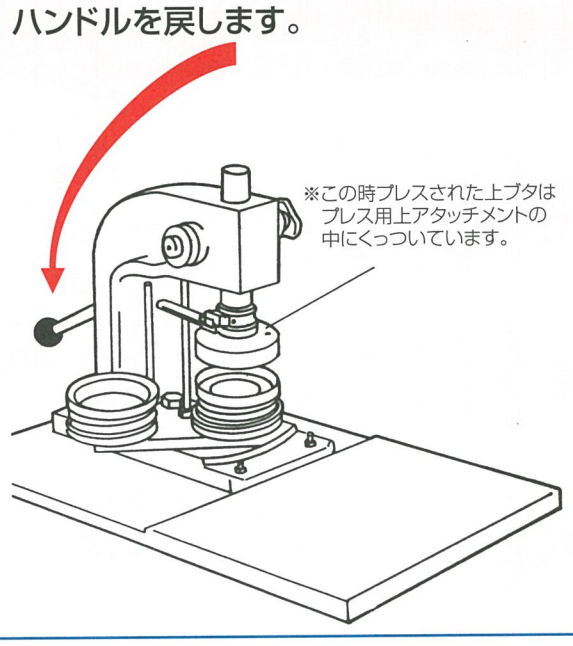
5 ハンドルを押し下げ、上ブタをプレスします。

※ガクッと音がして、ハンドルが止まればそれ以上力を加えないでください。



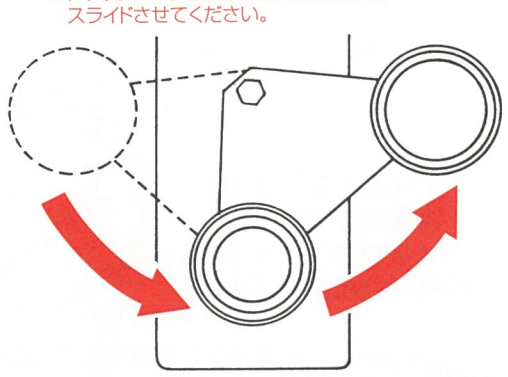
6 ハンドルを戻します。

※この時プレスされた上ブタはプレス用上アタッチメントの中にくっついています。



7 下ブタ用左側アタッチメントが、プレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。

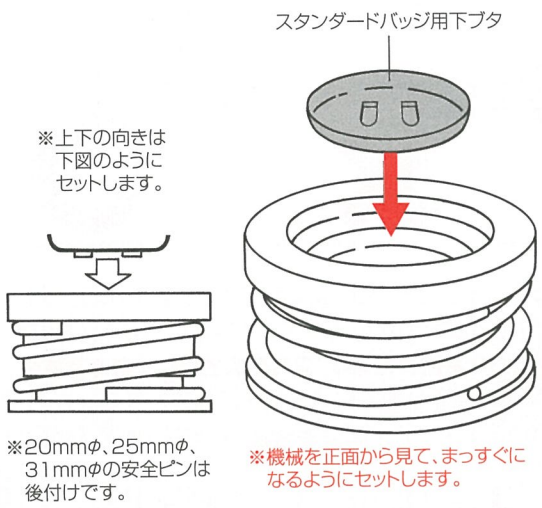
※アタッチメントは左から右へ止まるまでスライドさせてください。



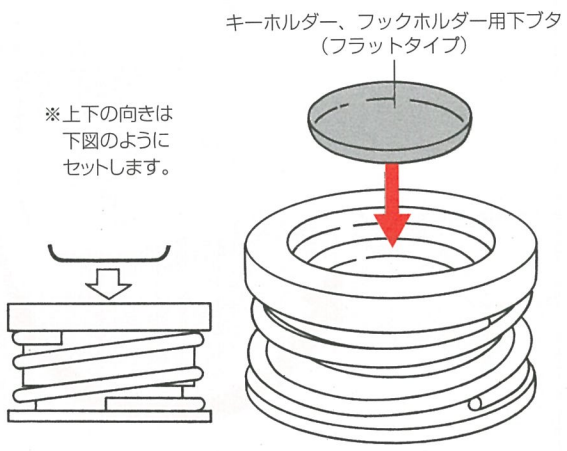
しっかりスライドさせないと、故障の原因となります。
前ページ 3 参照

8 下ブタを下ブタ用左側アタッチメントにセットします。

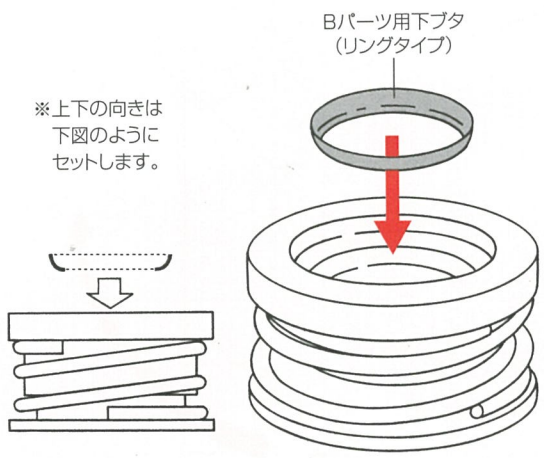
■スタンダードバッジの場合



■キーホルダー、フックホルダー等の場合

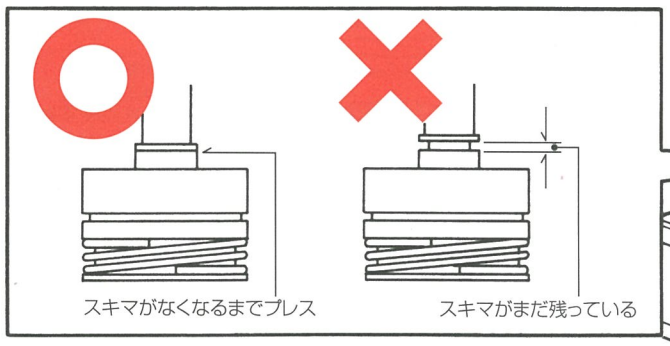


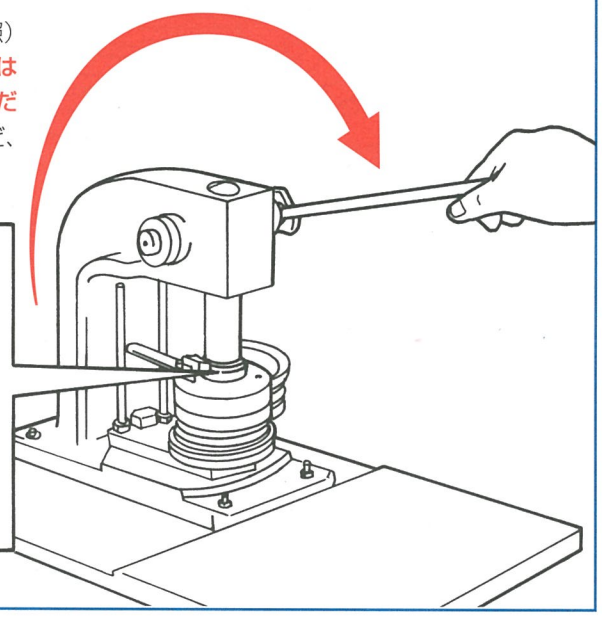
■Bパーツ（のの字ピンタイプ）の場合



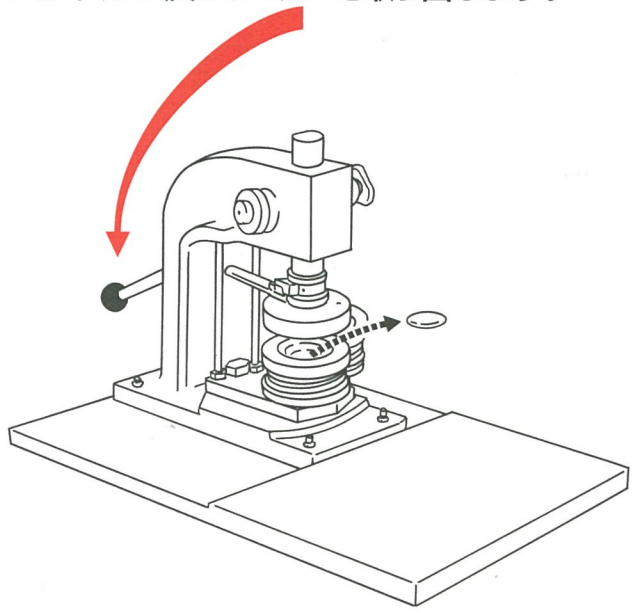
9 ハンドルを押し下げ、プレスします。

※この時、途中で止めずに最後までプレスしてください。（下図参照）
※小学一年生程度の力で簡単にバッジはできますので、**大人の方は体重をかけてプレスするなど、力をかけ過ぎないようにしてください。**ハンドルが曲ったり、アルミフレーム本体にヒビが入るなど、本体交換が必要になる場合がありますので注意してください。





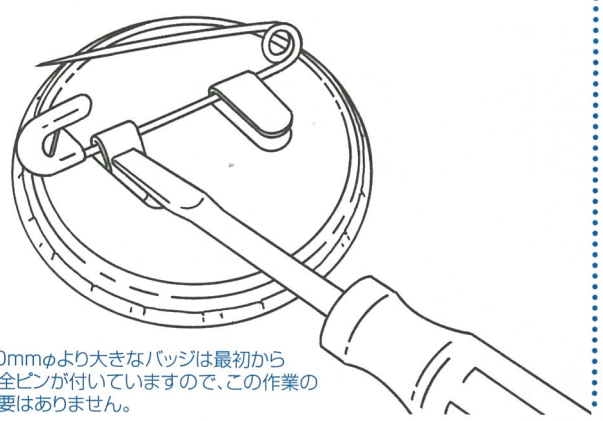
10 ハンドルを戻し、バッジを取り出します。



11 それぞれのグッズに仕上げて完成です。

■スタンダードバッジの場合

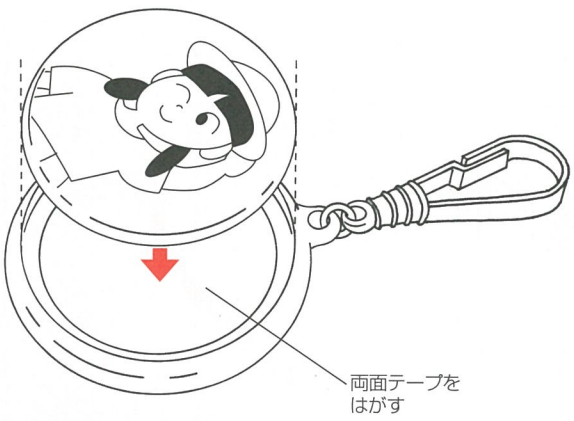
バッジを裏返し、ドライバーなどを使って付属の安全ピンを取り付けます。



※40mmφより大きなバッジは最初から安全ピンが付いていますので、この作業の必要はありません。

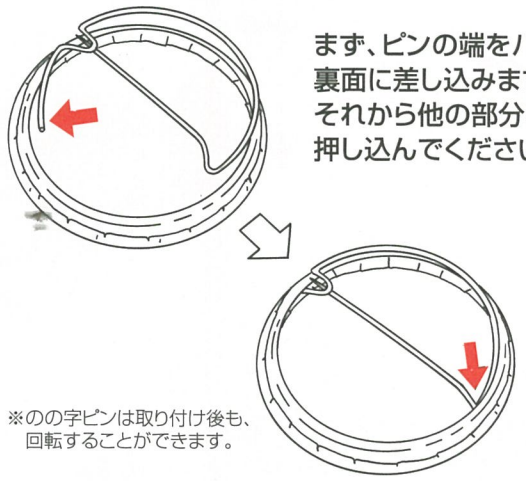
■キーホルダー、フックホルダー等の場合

バッジをホルダー本体に貼り付けます。



■Bパーツ（のの字ピンタイプ）の場合

バッジを裏返し、のの字ピンを取り付けます。



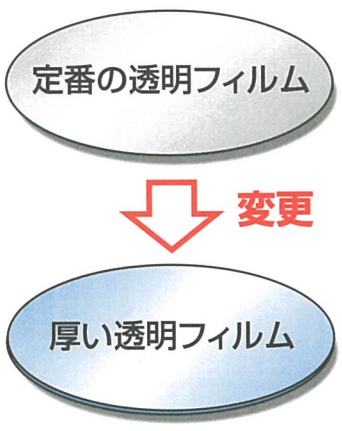
まず、ピンの端をバッジ裏面に差し込みます。それから他の部分を押し込んでください。

※のの字ピンは取り付け後も、回転することができます。

透明フィルム（OPフィルム）に関して

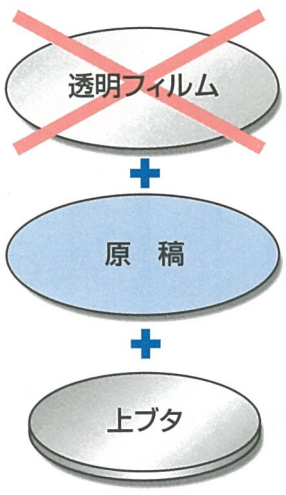
原稿によって異なる場合があります

お客さまがバッジ製作にご使用される原稿紙（多種多様）によっては定番の透明フィルムよりも厚い透明フィルム（別売）をお使いいただく方が良い場合がありますので、ご相談ください。



インスタント写真の場合

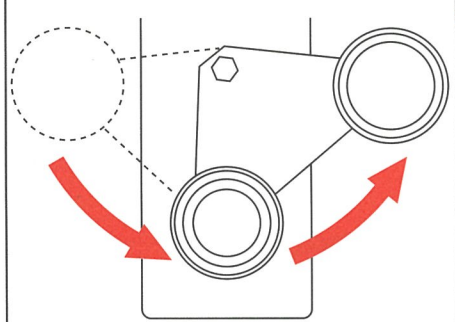
インスタント写真（一般的市販品）の場合、バッジ用の透明フィルム（OPフィルム）を使用しないで、バッジを製作します。



注意 インスタント写真の厚みや、材質によっては作れない場合もありますのでご注意ください。

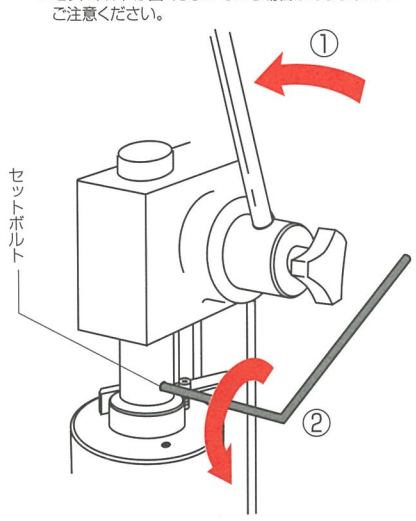
アタッチメントの取り外し方

1 ハンドルを後に倒した状態で下ブタ用左側アタッチメントが中央にくるように右側にスライドします。

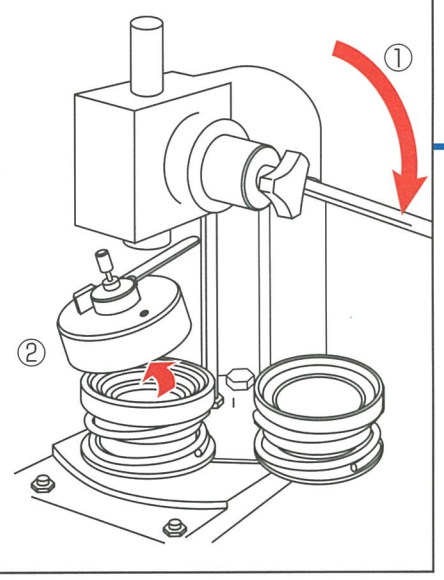


2 ハンドルを前へ倒して上アタッチメントを下げて、六角レンチでセットボルトをゆるめます。

※セットボルトは固くしまっている場合がありますのでご注意ください。

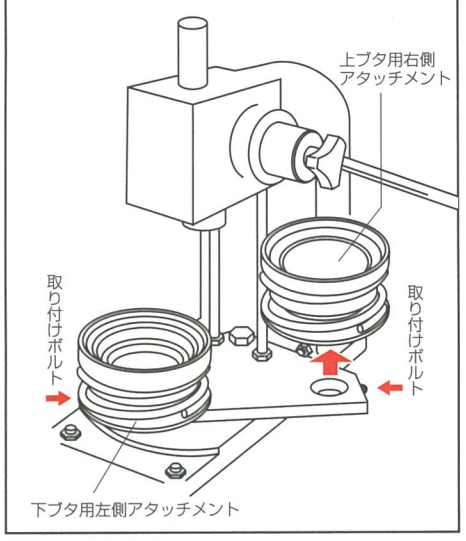


3 ハンドルを後へ倒し、上アタッチメントを取り外します。

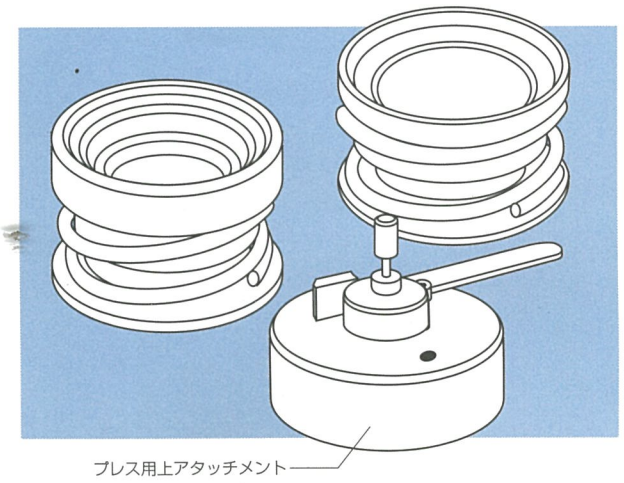


4 下ブタ用左側アタッチメントと上ブタ用右側アタッチメントを取り外します。

※取り付けボルトをゆるめて、取り外します。



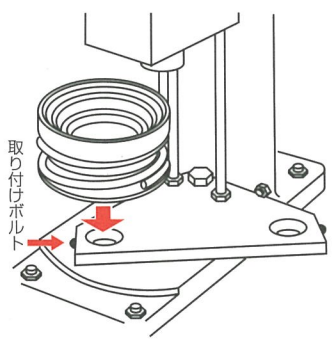
取り外したアタッチメントは丁寧に扱ってください。
特にプレス用上アタッチメントの取扱いには注意してください。



アタッチメントの取り付け方

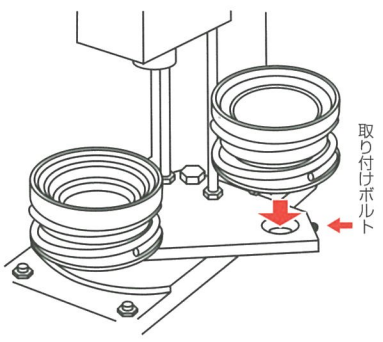
1 下ブタ用左側アタッチメント（くぼみの深い方）を左側に取り付けます。

※取り付けボルトをしめ、固定します。

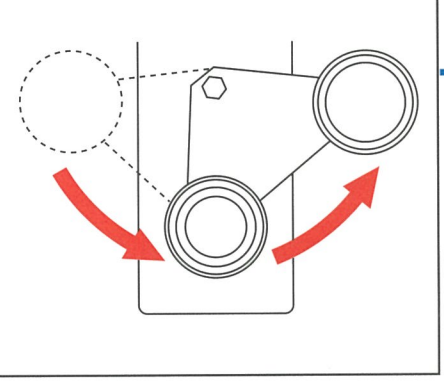


2 上ブタ用右側アタッチメントを右側に取り付けます。

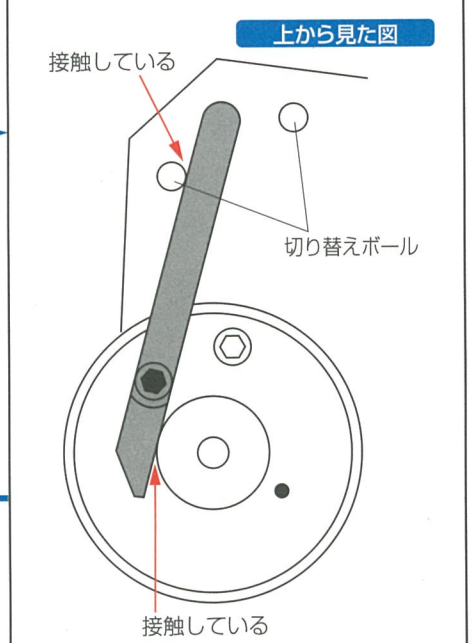
※取り付けボルトをしめ、固定します。



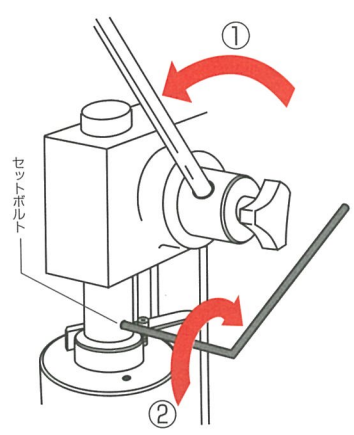
3 ハンドルを後に倒した状態で下ブタ用左側アタッチメントが中央にくるように右側にスライドします。



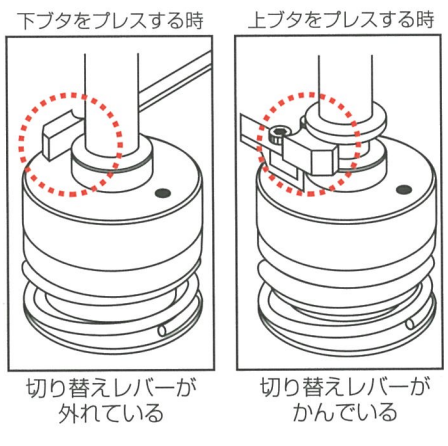
4 下ブタ用左側アタッチメントの上に、プレス用上アタッチメントを乗せ、図の位置にセットします。



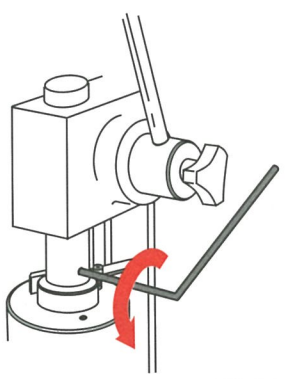
5 ハンドルをおろし、六角レンチでセットボルトをしめます。

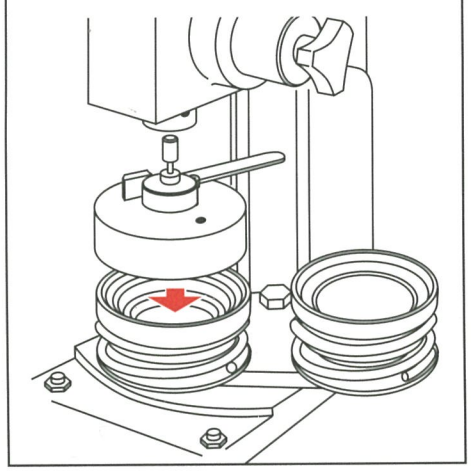


6 下図のようになっていることを確認します。



7 切り替えレバーが**6**図のようにならない時は、セットボルトをゆるめて**4**～**5**の作業を繰り返します。

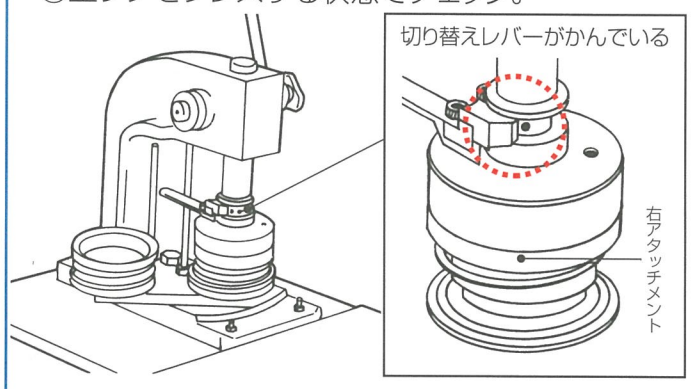




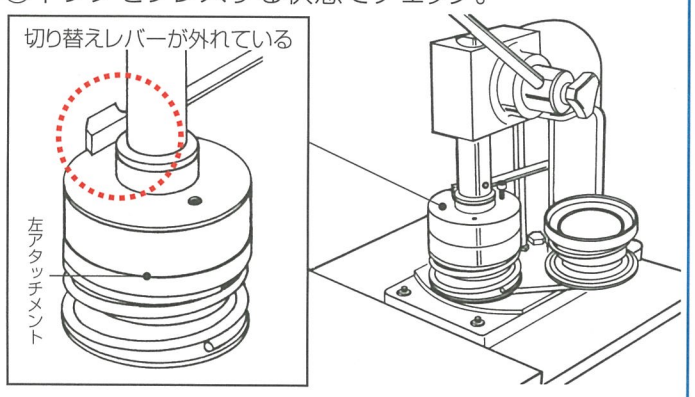
故障かな？と思ったら（うまくプレスできない）

アタッチメントが正しくセットされているかをチェック

①上ブタをプレスする状態でチェック。



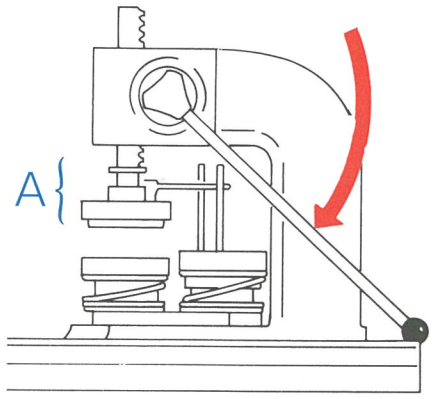
②下ブタをプレスする状態でチェック。



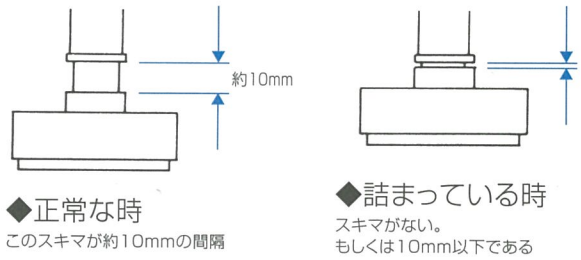
上図のようになっていなければセットし直します。

前ページの「アタッチメントの取り付け方」を参照し、3〜7の手順でセットし直して下さい。

透明フィルム等がプレス用上アタッチメントに詰まっていないかをチェック



ハンドルを戻し、プレス用上アタッチメントを上げた状態でA部をチェックします。



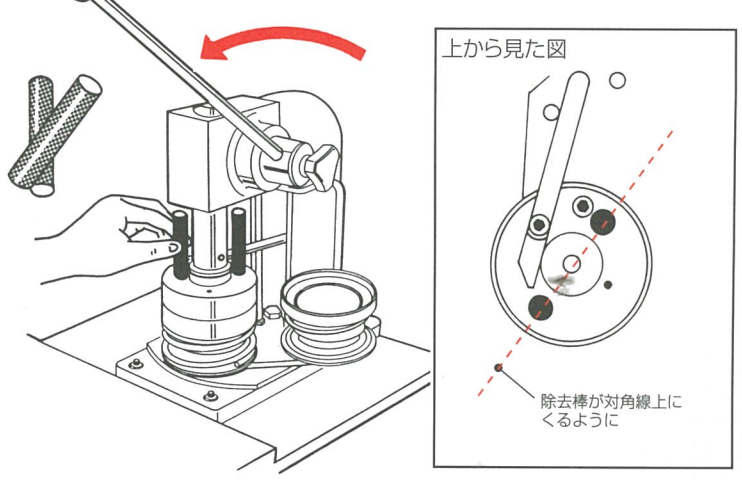
◆正常な時
このスキマが約10mmの間隔

◆詰まっている時
スキマがない。
もしくは10mm以下である

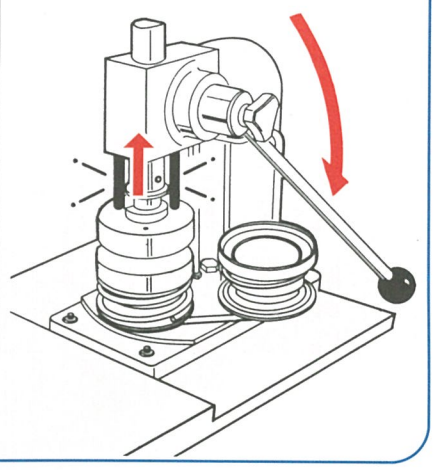
詰まる予想原因：①透明フィルムを2枚以上使った時
②原稿が厚すぎたり、固すぎた時　等

詰まっている透明フィルム等を取り除きます。

①ハンドルを手前に倒し、除去棒を下図のように置きます。



②ハンドルを戻します。これで詰まっていた透明フィルム等が取り除けます。



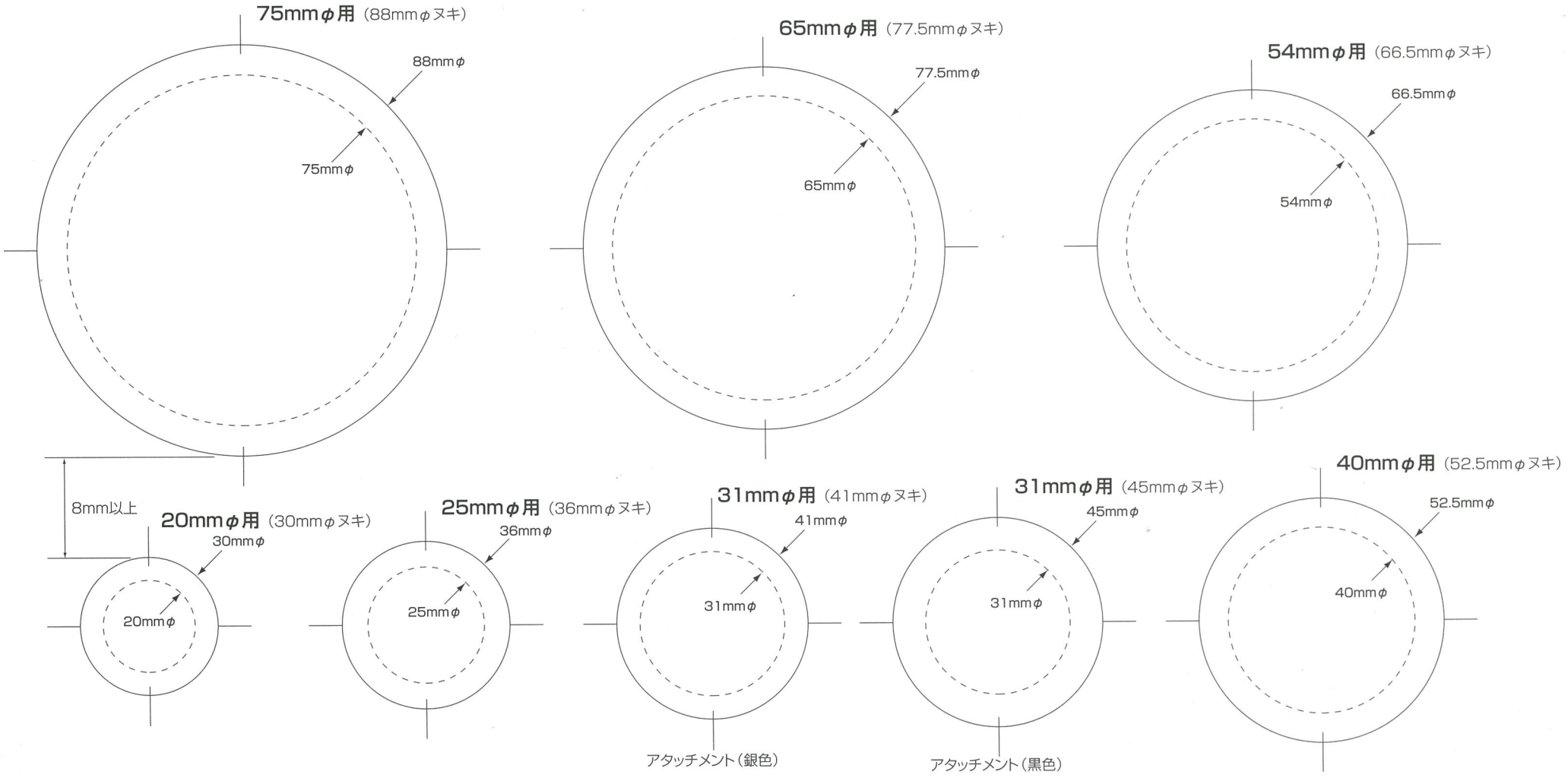
※上記の方法でも状況が改善しない場合は、点検・修理が必要な場合がございます。

印刷時の注意点

■紙（紙厚）の選択

●75・65・54mmφのバッジを作る場合
アートポスト紙　四／六判（788×1,091mm）……160kg〜180kg
菊判（639×939mm）……111kg〜125kg

●40・31・25・20mmφのバッジを作る場合
アートポスト紙　四／六判（788×1,091mm）……135kg
菊判（639×939mm）……93.5kg
上記の紙を使用していただければきれいなバッジができます。

■版下・印刷について

①バッジの印刷寸法（抜き寸法）
バッジを作る場合実際のバッジ寸法のほかに巻きしろ**寸法がプラスされます。**（下図参照）
②下図のようにバッジの外円（実線）と外円（実線）との間隔を**最低8mm以上**とってください。
③下図のように外円（実線）の天地のところに外円（実線）から内へ2mm程**トンボ（天地）**の線を上下に入れてください。※後にバッジを作る時の基準となる線ですので、必ず入れてください。
④印刷する場合には**外円は実線で印刷**してください。紙を抜く時の基準となります。
〔下図の**内円（点線）は印刷しない**でください〕